

0～6歳児のための ことばの発達相談

～早期発見・早期改善のポイント～



「ことばの発達ペースは個人差が大きいから、あまり心配しないで」「3歳ぐらいまでは様子を見たほうがよい」。そんなふうに言われることがあります。でも、本当にそうでしょうか？ 実際は、「もっと早めに手を打っておけばよかった…」と、後悔する保護者の方も少なくないのが現状です。

1～2歳でも、たとえゼロ歳のお子さんであっても、早期発見早期改善は可能です。「様子を見るしかない」という宙ぶらりんの状態から、一歩踏み出して、今できることを始めてみませんか？

■ことばの発達の仕組み

●早期発見・早期改善のために、まず知っていただきたいのは、「ことばは、どのように発達していくのか」という基礎知識です。

●子どもの最初の表現は、「泣く」ということです。〈赤ちゃんが泣く→親がこたえる〉という繰り返しの中で、赤ちゃんは、自分の気持ちを受けとめてくれる親の存在を知ります。すると、親に向けての表現が増えていくのです。

最初に増えていくのは、**〈表情や行動による表現〉**です。赤ちゃんは、嬉しいときや楽しいときに、親に笑顔を向けるようになります。怖い思いをしたときは、助けを求めて親のほうを見たり、泣いたりします。ハイハイができるようになると、親のところに来て甘えたり、泣いたりします。こういったことが、**〈表情や行動による表現〉**です。

このような親子のコミュニケーションの中で、親子関係（愛着関係）がしっかりと形成されていきます。

●親子関係の深まりとともに、子どもは、「自分の気持ちを、もっともっと親にわかってもらいたい」という表現意欲が高まります。それが後押しとなって、親が使っていることばを、自分から進んで真似するようになります。これが**〈ことばによる表現〉**です。

このように子どもの自己表現は、**〈表情や行動による表現〉**から**〈ことばによる表現〉**へと、2つの段階を経て発達していくのです。

■〈表情や行動による表現〉が注目ポイント

●〈ことばによる表現〉だけに注目するなら、3歳ぐらいまで様子を見る必要があるかもしれません。しかし、ゼロ歳後半から1歳にかけて急速に発達していくはずの〈表情や行動による表現〉が伸び悩んでいる場合は、早めに手を打っていく必要があります。

●〈表情や行動による表現〉があまり出てこない場合は、ことばの発達の土台である表現意欲や親子関係（愛着関係）が揺れている可能性があります。親が愛情いっぱい育てていても、子どものもつ感情抑圧傾向によって、そうなってしまうケースがあるのです。そのような場合は、月齢が進んでも、ことばが出てこない可能性があります。

●また、〈表情や行動による表現〉が不十分なままで、ことばが始めたお子さんの場合は、「ことばは出たけれど、会話になりにくい」「場面に合わないことばを、一方的にしゃべり続ける」といった状態になってしまうことがあります。そのようなお子さんも、〈表情や行動による表現〉に着目し、親子関係を見直していく必要があります。

●お子さんの中には、「ことばの心配はなかったのに、3歳頃から、それまで覚えていたことばをしゃべらなくなり、やがて完全にことばが消えてしまった」というケースもあります。

このようなお子さんも、改めて〈表情や行動による表現〉にポイントを置いた療育に取り組むことで、ことばを復活させていける可能性があります。

■早期改善や予防的育児が必要な〈お子さんの特徴〉

●「〈表情や行動による表現〉が滞っているかどうか」「表現意欲や親子関係（愛着関係）が揺れているかどうか」は、お子さんの様子や行動から判断することができます。

ただ、表れ方はお子さんによってさまざまですので、愛着支援技術をもった専門家にしか判断できないようなケースもたくさんあります。ご心配な場合はぜひ早めにご相談ください。

●ここでは、相談室でよく見られる「早期改善や予防的育児が必要なお子さんに、よく見られる行動や様子」をご紹介します。（以下の行動・様子がすべて表れるわけではありません。また、これ以外の行動・様子が表れる場合もあります。）

【0歳児】

- ・目が合いにくい。
- ・抱っこをすると、そりかえったり、身をよじらせたりする。
- ・抱っこをしたとき、一体感が感じられない。
- ・ほとんど泣かない。（反対に、ギャーギャー声で長泣きする）
- ・サイレントベイビー（おとなしすぎる赤ちゃん）
- ・いつも機嫌が悪い。
- ・親になつかない。

【1歳児～】 ※0歳児の項目に加えて

- ・怖いことや嫌なことなどがあっても、親に助けを求めたり、泣きついてきたりしない。
- ・聞き分けが悪い。
- ・少しのことで、かんしゃくを起こしやすい。
- ・こだわりが強い。
- ・落ち着きがない。
- ・集団行動が苦手。
- ・たいした理由もないのに、人に手が出る。
- ・指しゃぶり、物なめ、鼻ほじり、歯ぎしりなどの〈気になるクセ〉が直らない。
- ・気持ちが分かりにくい。
- ・奇声が多い。
- ・寝つきが悪い。眠りが浅い。
- ・増えていた言葉が、ある時期から消えてしまった。

●お子さんに、これらの行動・様子が見られる場合は、ぜひお早めのご相談をお勧めします。

ことばの土台である〈表情や行動による表現〉が滞っている場合は、「たくさん遊んであげる」「たくさん話しかけてあげる」といった接し方も、あまり効果が見られない場合が多いのではないのでしょうか。それはお子さんが、〈感情抑圧傾向〉をもっているからです。

そこを乗り越えていくためには、愛着支援技術をもった専門家の支援が必要です。

■ことばの発達と、愛着障害・発達障害との関係

●〈愛着障害〉とは

従来、「親との間に愛着関係が形成されていない」子どもは、**愛着障害**と呼ばれ、親の育て方（虐待など）が疑われてきました。親が子どもの自己表現を受けとめているのなら、愛着は自然に形成されていくものだと考えられていたからです。

しかし近年、親が愛情を注いで育てていても、子どもの側の感情抑圧傾向によって、愛着関係が形成されにくいケースがあることがわかってきました。これが、この小冊子でお伝えしている〈愛着形成の揺れ〉です。

このようなお子さんの場合、ことばだけでなく、発達全体に支障が出てくる場合があります。したがって、〈表情や行動による表現〉に着目した支援により、親子関係（愛着関係）をしっかりと形成していく必要があるのです。

●〈発達障害〉とは

また、〈愛着形成の揺れ〉があると、**発達障害**のお子さんと同じような行動・様子が見られることがあります。しかし、発達障害のお子さんの行動は、認知の特性からくると考えられていますので、両者は質的に違うものです。

※発達障害のお子さんの中にも、〈愛着形成の揺れ〉を抱えているケースがあります。そのような場合は、愛着支援技術による言語発達支援により、ことばの発達が改善していく可能性があります。

■〈ことばの発達支援〉のための親子カウンセリング

●相談室では、〈親子カウンセリング〉という形で、言葉の発達支援を進めていきます。乳幼児の場合、親子の関係性に着目した支援の方が、ことばの発達に効果があるからです。

●進め方としては、まず、ご心配の内容や、ご家庭でのふだんの様子をうかがいます。さらに、目の前のお子さんの様子を拝見することで、表情や行動による表現や表現意欲など、〈ことばの発達の土台〉の状態を診断していきます。また、親子関係についてもアドバイスをしていきます。

●つぎに、実際にお子さんとのやり取りを見ていただきながら、〈表情や行動による表現〉の引き出し方など、ふだんの育児に生かせるコツをお伝えしていきます。

●最後に、今後の見通しについてお話していきます。「ことばの発達に必要な土台作りのために、お子さんの行動のどういう点に注目していけばよいのか」「ご家庭で、今日から始められる働きかけは何か」「専門家による継続的支援が必要か否か」など、お子さんの状態によって、さまざまにご相談に応じていきます。

★よくある質問★

(Q) 1回の所要時間は、どれくらいですか？

(A) 90分程度です。じっくりとお子さんの様子を拝見し、今できることを丁寧にご説明したいので、それだけの時間を頂戴しています。

(Q) 1回のカウンセリングで、改善されますか？

(A) それは、お子さんの状況によって様々です。もちろん、1回で改善が見込まれる場合もあります。しかし、ことばの発達の土台作りからのスタートが必要なお子さんの場合は、専門家による定期的・継続的な〈ことばの発達支援〉をご提案させていただいています。

(Q) ゼロ歳の赤ちゃんに対しては、どのような内容になりますか？

(A) 「目が合いにくい」「抱っこをすると、そりかえる」など、p3に書かれている様子が見られる赤ちゃんは、感情抑圧傾向により、愛着形成が進みにくい場合があります。そのような赤ちゃんに対しては、「泣く」という自己表現行動を励ますような接し方が、予防的育児として必要です。抱っこのしかたなど、ちょっとした工夫から始められるポイントをお伝えしていきます。

(Q) ことばが遅いのが気がかりですが、3歳ぐらいまでは様子を見ようと思っています。ダメでしょうか？

(A) 3歳ぐらいまで様子を見ていてもよいタイプのお子さん、なるべく早く〈ことばの発達支援〉を受けた方がよいタイプのお子さんがいらっしゃいます。どちらのタイプなのかは、1回の親子カウンセリングでおおよその判断がつかますので、まずは一度だけでも、ご相談に来られてはと思います。

(Q) 他の療育機関で、言語指導を受けていますが、併用は可能ですか？

(A) もちろん可能です。一般の療育では、ことばによる表現に焦点を当てた内容が多いのではないのでしょうか。それにプラスして、ことばの土台作りに着目した親子カウンセリングにも取り組まれた方が、より効果が上がると思います。

(Q) いろいろな所で、ことばの指導を受けてみましたが、先生の言うことが聞けず怒り出したり、椅子にも座ることができない状態で、結局、進歩が見られないまま、中止になってしまいました。このような子どもでも、だいじょうぶですか？

(A) はい、だいじょうぶです。「聞き分けが悪い」「じっとしてくれない」「すぐにかんしゃくを起こす」といった行動の多くは、愛着の揺れから来るものです。ですから、ことばの発達の土台である愛着の形成に着目した親子カウンセリングに取り組んでいくと、ことばの発達だけではなく、お子さんの困った行動についても改善の効果があります。

(Q) 5歳児で、中～重度の発達障害があります。発語はまったくありません。そのような子どもでも、話せるようになりますか？

(A) そのようなケースでは、話せるようになるお子さんもいらっしゃいますし、残念ながら、話せるようにならないお子さんもいらっしゃいます。

それでも、〈表情や行動による表現〉の領域が伸びていくだけで、気持ちがわかりやすくなっていくはずです。自己表現に対する意欲が高まっていくと、表情や身振りなどを通して、それなりのコミュニケーションができるようになっていきます。ぜひ、あきらめずにご相談ください。

★〈ことばの発達相談〉についての詳細(場所・費用・予約方法等)は、WEBサイトをご覧ください。

WEBサイト「ぴっかりさんの子育て相談室」

～ぴっかりへのご相談～ →→→



■子育てカウンセラー／ 萩原 光 (はぎはら・こう)

千葉県八千代市でシャローム共育相談室を主宰し、子育て相談・親子カウンセリング・ことばの発達相談・発達が心配な子どものための療育支援・大人のためのカウンセリングを通じて、多くの親子の立ち直りを援助している。ネット上では、「ぴっかり先生」として有名。著書は『心を抱きしめると子育てが変わる』(主婦の友社)、『ちょっと気になる子の育て方』(学陽書房)、『お母さんの抱っこでよい子に育つ』(PHP研究所)など多数。愛着支援技法研究会・代表。

■シャローム共育相談室

〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北16-17-4

TEL:090-6142-9456

Eメール:picari@nifty.com

WEBサイト「ぴっかりさんの子育て相談室」

(<http://picari.jp/>) →→→



※WEBサイトには育児に役立つ話がたくさん掲載されています。